

情報ぎゃらりー

広げボランティアの輪

NO.52

2010年10月号

編集・発行 NPO法人グループわ（西田圭一）
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村 シルバーカレッジ内
TEL078-743-8101 FAX743-3830 HP <http://www.wa-net.jp>

わ



似合つかない。ブブカ姿で着付けをしてもらうイラン女性（写真・渡邊佳視）

オー KIMONO ワンダフル

国際免疫学会が8月下旬（23日～27日）、ポアアイの国際展示場を中心に開かれました。世界70か国から6000人が参加するという大きなイベントです。グループわは、会場の一角で、和風喫茶と生け花など「日本の伝承文化」を知ってもらう体験教室を連日開催。5日間で1400人を超す参加者が訪れ、初体験を楽しんでいました。

おお、ワンダフル。ヨーロッパ・東南アジア・アフリカ・中近東...外国人は好奇心が旺盛。着物姿にはしゃいだり、お点前や大正琴に飛び入り挑

戦したり。毎日顔を見せる常連さんもあって大盛況でした。

この催しは、グループわがイベント会社から委託され、4か月がかりで準備。生け花・書道・着付け・昔遊び・茶道・大正琴グループのOB・現役の協力で実現したものです。通訳スタッフは国際部会が、和風喫茶では常盤大生が奮闘してくれました。わの総力をあげて取り組んだ5日間。学会からは「よくぞ、ここまで」と感謝の言葉が寄せられました。（関連記事 2・3ページに）

1 今号の誌面

カレッジ北側の里山を整備 p4

カレッジで生物多様性フェア P5

座談会「学習支援を活発に」 p6・7

カラグラフィ 工作塾・夏祭り P8～9

エッセー「ボランティアの心」 P10・11

カレッジだより・WA短信 P12～14

10月～1月のイベント案内 P15

[目次の頁へ](#)

[次頁へ](#)

"ジャパン体験" 熱気の1400人

ポーアイで開かれた国際免疫学会。グループわが展開した日本文化の体験教室には、40か国から1400人を超す“お客さん”があり、興奮と熱気に包まれた5日間となりました。先生役として通訳係として接待係として、フル回転したスタッフは延べ200人。奮闘ぶりをふりかえってみました。(広報担当・南形徹)



ボランティア最前線

生け花・着物...国際会議で文化教室 世話係で200人奮闘

教室は日替わりで、8月23日は生け花。24日は習字。25日は着付け、26日は折り紙。午前と午後に分け1日50人を目安にしましたが、飛び入りも多くスタッフはてんてこ舞い。和風喫茶は連日開店。お釜を持ち込み、大正琴の調べを流し、床机で抹茶を味わってもらいました。

ロシアのアンちゃん 母親が会議に出てしまって和風喫茶の横で寂しそうなロシアのアンちゃん、10歳。通訳係の芳賀順子さんが「どうしたの？こちらへいらっしゃい」とやさしく声をかけ、床几に。いやがっていたのに、お菓子を食べ、抹茶を飲む頃にはすっかり芳賀さんになつき、にこにこ顔。抹茶の味は？の問いに、とまどった様子で「エクセレント！」。

「生け花や折り紙など、細かい説明があるので、かなり事前勉強が必要だった。英語圏以外の方も相当いてまいりましたね」とチーフの加藤隆哉さん。なごやかに、スムーズに国際交流ができたのも、通訳陣の活躍によるところが大でした。

生け花で日本ムード フラワーはどここの国の女

性にも大人気。自分流にイケた作品は、名札をつけて喫茶の周りに飾られ、会期中、行き交う人たちの目を楽しませてくれました。

福井慶子さんらが持ち込んだ花器はざっと60点。用意した花材は50種200本以上。この季節、これだけの種類を用意するのは大変で、花屋だけでは足りず、「自分たちで探し回りました」と。

「花」の字が躍る 習字の生徒は70人。お手本に従って「花」という字に取り組みました。案外すらすら書く女性、子ども。筆を持つのにてこずる男性。自分の作品は先生の講評を受けて、お土産に。谷河博司さんは「書き順はめちゃくちゃだけど、みんな楽しんで書いていましたよ」。

KIMONOに殺到 予定の3倍160人が殺到。壁面にずらりかけられた着物は60着。好きなものを選ぶのですが、女性陣、なかなか決まりません。男性や子どももいます。TシャツやGパンの上からなので少々窮屈そうですが、帯を締めてもらってできあがり。姿見の前でハイ、ポーズ。「きれいに撮ってね」。通訳係も大忙しです。「長じゅばんだけ着たらいい、という女性もいて、少しがっかり」とは汗だくの増金スミ子さん。増金さんは、ロビーで南京玉すだれも披露。変わったパフォーマンスに拍手喝采が。



和風喫茶うれしい繁盛

色とりどりの団扇 男性や子どもも混じって、ツルやコマの折り紙、団扇づくりに挑戦しました。先生より早く作る器用な参加者も。“マイ団扇”であおぐ気分は上々のようです。「オリガミは今や世界的。皆さんとても熱心でしたよ」と新小田収さん。

大正琴のBGM 和風喫茶にはいつも大正琴の調べが流れていました。5グループが童謡やスキヤキソングなど30曲ずつ準備。日替わりで出演してくれたのです。外国人には珍しい楽器のようで「ピアノみたい。



弾かせて」と希望者が続々。メンバーが親切に手ほどきしていました。中道紀子さんたちは「楽しんでもらえてよかったです」と満足そうでした。

浴衣のお嬢さん 和風喫茶は床几6台を並べ、30人ほどがゆったり座れる広さ。初日は一杯500円だったせいか、客足まばら。2日目から「無料」にしたとたん、立ち寄り人がどっと増えました。なにより人気だったのは常盤大のお嬢さんたち。毎日4、5人が浴衣姿で詰めてくれましたが、「一緒に写真撮らせて」とモデルにひっぱりだこ。「若さと浴衣にはかないませんね」と店長の橋野美子さんは苦笑い。「でも、初日はどうなることかと...。お茶一杯でも円高の影響は

大きいですね」と驚いていました。

ジャパニーズティ お点前の仕草が珍しいのか「やってみてほしい」というリクエストが次々と。神妙な手つきで茶筌を回していました。銀の匙からは毎日5人が詰めてお湯を沸かし、お茶をたて、茶碗を洗い...。接待係として大活躍。茶道の中島早玖子さんは「5日間で950杯も出たんですか。夢中でしたが、多くの方に楽しんでいただけて、うれしい」と。

外国からお礼メール 「良い経験をした。すばらしい旅行になった」。外国からお礼メールもたくさん届いています。イベント責任者の道満俊徳理事は「トラブルもなく、多くのお客さんに喜んでもらえて、やった甲斐があった。スタッフの皆さんの奮闘に感謝、感謝です」と興奮気味でした。

(2・3ページの写真撮影・渡邊佳視)

Wonderful Ikebana

ニューヨーク州立大バアファロー校のスプリア・マハジャン准教授から、グループわに寄せられた「感激のメッセージ」を紹介します。

I had a wonderful time at the Ikebana Japanese Flower arrangement show. The instructors were so knowledgeable and were so helpful. I have always been so fascinated by Ikebana, which is so elegant and simple. Your NPO group which produces this Japanese cultural events is indeed a very well organized and wonderful organization that provides foreign tourists with glimpses of the fascinating Japanese culture and additionally provides an opportunity to experience the warm and kind hospitality of the Japanese people.

Japan is a fabulous country, that is so modern and yet so deeply rooted in tradition.

Thank you for your warm hospitality. This visit has been the most memorable experience of my life. I wish your organization every success.
Dr. Supriya Mahajan,

しあわせの村の里山を憩いの森に

わの提案に県の助成金350万円

グループわに里山整備助成金350万円 兵庫県が募集していた「22年度里山ふれあい森づくり（住民参画型）事業」に、わの提案したプランが認められ、このほど350万円の助成が決定しました。さっそく、菅田忠志理事をリーダーとするプロジェクトチームが発足、9月から活動を開始しました。

このプランは、しあわせの村内の里山・森林エリアをもっと魅力あるものに再生し、市民や子供たちに楽しんでもらおうとするものです。森林浴や野鳥観察、ビオトープ体験、森林学習が気軽にできる散策コースの整備、説明看板やベンチの設置などを、4エリアに分けて、5年がかりで進めます。初年度は、まずシルバーカレッジ北側に広がる里山の整備（Aゾーン＝写真）に取り組みます。

現在、しあわせの村内では豊かな自然を利用して



キャンプ場や散策路が設けられ、野鳥観察なども広く行われていますが、村内を里山エリア（A）、ビオトープエリア（B）、森林浴エリア（C）、野鳥観察エリア（D）の4ゾーンに分け、再整備して快適な自然学習の場にしようというのが、今回の事業の狙いです。

プロジェクトチームは、グループわの環境部会を中心に、里山クラブや里山和楽会、ビオトープの会、森の仲間、野鳥と自然観察会、神戸ホテルの会などで構成。しあわせの村を運営するこうべ市民福祉振興協会や、カレッジ事務局も加わってまいります。10月中にはおおよその全体像とスケジュールを発表する予定です。

リーダーの菅田理事は「子供たちの自然環境学習の場として、市民の憩いの場として、魅力ある里山にしたいですね。実際の作業は、生環コースのカリキュラムにも組み入れてもらって、カレッジのOB・現役が総力をあげて取り組む」と話しています。

2 グループに感謝状

ケナフの会

牛乳パックなどを利用した紙漉き活動をおこなっているケナフの会（長谷川博代表）に9月15日、神戸市社会福祉協議会から感謝状が贈られました。通所施設・いかり共同作業所（中央区）で、7年前から行っている紙漉き、2年前から始めた色紙づくりなどの指導に対するものです。活動は毎月第2水曜に、会員7～9人が作業所に通って教えています。

色紙作りは会員のアイデアで生まれました。「できた紙に絵を描いたら」というわけで、絵心のある松井さんが中国の少数民族に伝わるトンパ文字をイラスト風にあしらった原画を描き、通所者と一緒に作成しているものです。一般に販売したところ好評で、注文に追われ何回も追加制作したほど。絵柄は「虎・夢」の2種で1枚400円。問い合わせは長谷川（412-8446）まで。



もみじ会

知的障害者の施設・明生園（しあわせの村内）で10年間にわたってボランティア活動をしているグループわ「もみじ会」（宮城智子代表）に神戸聖隷福祉事業団から7月31日、感謝状が贈呈されました。会員は現在7人。月1回、4人のローテーションを組んで施設へ出かけ、入所者と一緒に歌ったり、ボール転がしをしたり、体操代わりに阿波踊りや炭坑節を踊っています。宮城さんは「こちらも、相手の障害者も高齢化が進み、思うようなお世話ができませんが、皆さんの笑顔に元気をもらっています。後継ぎをしてくださる仲間が、ぜひほしい」と話しています。問い合わせは宮城（電話521-3391）まで。



（写真は明生園での活動風景）

環境未来館 ビオトープ物語 ㊦



「未来の泉を育てる会」結成

市民の皆さんと一緒に始めたビオトープの掘削作業は、4か月かけて平成16年10月に原型が完成しました。水は雨水を主体にしましたが、足りない分は水道水を補充しています。ビオトープは閉鎖水域では循環しません。水を動かし、流れを作る必要があります。風力発電と太陽光発電を電源に循環用のポンプを設置しました。未来館周辺の動植物をできるだけたくさん採集して移入しました。メダカ、ドジョウ、ヌマエビ、フトイ、ハス、セリ、ガマ、ミゾソバ、スイレン、ジュンサイ、ヒシ、じゅずだまなどです。その後、17年4月には市民の皆さんからビオトープの愛称を公募。未来の泉という素晴らしい名前をつけてもらいました。ビオトープに関心のある市民や子



供たちを中心に「未来の泉を育てる会」を結成。40名ほどのメンバーが集まり活動を続けています。毎月(1月~3月を除く)第一土曜日にビオトープの整備や研修会などを行っています。

最近の例会の活動ぶりをみてみると

8月7日(土) 夏休み中でもあり、家族連れや育てる会の会員ら計26名が参加しました。西谷アドバイザーから「未来の泉」作りの経過、その後の様子、未来の泉で観察できる「神戸の守りたい生きもの百選」の話の話を聞きました。その後、参加者が生き物を採取して観察しました。4月に放流したカワバタモロコ(100匹)は6月頃に孵化した稚魚がたくさん

いました。(マ)ドジョウも増えているようです。通常作業として、オオアカウキクサの除去(あまり多くなると太陽光がさえぎられ水中の植物の光合成が妨げられる)、オオカナダモの刈り取り、池の近辺の雑草の除去などをしました。また、きょう付け(8月7日)の神戸新聞に掲載された森尾君兄弟(小4)に講師になってもらい、昆虫や魚の話の話を聞き勉強しました。(写真=8月7日の活動風景)

このように、毎回ビオトープで自然観察を楽しんでいます。関心のある方の参加を歓迎します。(グループわ 三島 隆夫)

カレッジで生物多様性フェア

10月29日 卒業生・市民の参加を

名古屋で開かれるCOP10にちなんで、「生物多様性交流フェアIN KSC」が10月29日(金)、シルバーカレッジで開催されます。カレッジと神戸市環境局が主催。食と農・里山・ビオトープなどに取り組むグループが、生物多様性について議論を深め、カレッジから世界にメッセージを発信しようというものです。

生環コースの合同授業として行われますが、分科会では卒業生による研究発表が多く、グループわも支援しています。事務局では「卒業生や市民、NPO関係者にぜひ聴いてほしい」と呼びかけています。フォーラムの内容は次のとおりです(10月1日現在)。敬称略。

29日第1部 10:00~12:00(カレッジホール)

基調講演「生物多様性と私たちの暮らし~みんなつながりあって生きている~」中瀬勲(兵庫県立人と自然博物館副館長) 特別報告「生物多様性神戸戦略について」武田義明(神戸大学大学院教授)

第2部 分科会 13:00~14:30(学習室など)

「里山保全活動と生物多様性」発表=大谷敏行(生11)

道満俊徳(生13) 進行=谷口博(生環サポーター)

「食と農と生物多様性」発表=瓜生隆宏(県土地改良事務所) 辻村允夫(生8) 進行=土井敏男(市環境局)

「野鳥の保護と生物多様性」発表=北野光良(湊川中学校) 茅中英一(生11) 進行=井上清仁(日本野鳥の会兵庫)

「ため池から考える生物多様性」発表=大嶋範行(市環境局) 田下日順(生10) 進行=菅田忠志(生11)

「ビオトープ活動と生物多様性」発表=三島隆夫(生8) 金下玲子(阪神・都市ビオトープフォーラム) 進行=戸田耿介(生環サポーター)

「生物多様性と環境教育」ビデオ上映 ノリカちゃんとコウノトリ 発表=南形徹(生14) 藤原昭宏(生13) 西谷寛(空と海の約束プロジェクト) 進行=松本朱実(動物教材研究所)

第3部 懇親会 15:00~16:30(学習室3・4) 分科会の報告の後、お茶を飲みながら交流。自由参加。

ロビー展示(18日~29日) 写真展「神戸の海は宝箱」 宮道成彦「里山の動植物たち」今給黎靖夫 パネル展示「生き物百選」「カワバタモロコの保全」「ため池の生物多様性を守る」 映画「田んぼ」上映

六甲山エコハイク 30日(土) 布引の滝から市ヶ原をめぐる3時間のコース。参加者は予約の50人。

*問い合わせはカレッジ事務局(743-8100)まで。

学習支援をもっと活発に

高いカレッジ生への期待 支援者増やす方策は

グループわが、学習支援を始めて5年。いまや活動の大きな柱になっていますが、支援者が思うように増えない現状をどうするか、特別支援の要請急増にどう応えるか、といった課題も出てきています。子どもたちを育てるためのお手伝いは、シルバー世代にふさわしい活動分野だといわれます。シルバーカレッジで学習支援の輪を広げるにはどうしたらいいのか。学習支援委員会のメンバー3人にじっくり話し合ってもらいました。

座談会

加藤勇治（学習支援委員長・美10）
川上弘一（福12・算数、特別支援）
宮崎芳江（生12・算数、特別支援）
司会＝鬼村信行（国14・算数）

学習支援のニーズは多い

わの会員でも、学習支援を知らない人は随分多い。現状はどうなっていますか？

加藤 似たようなものに、校庭の掃除とか、子供たちの見守りをする「学校支援」があります。学習支援は、算数・理科などの指導補助。それと近年、要望が多いのが特別支援。担任の先生を助けて、障害のある子供たちの面倒をみるものです。

宮崎 今は、ハンデのある子供たちも普通学級で学ぶようになって、担任の先生は大変なんです。何人もいると、とても面倒をみきれず、ボランティアの支援者がいるのです。

加藤 そうですね。学習支援のニーズは増える一方です。特にシルバーカレッジからの支援者は歓迎されているようで、年々、要請校が増えています。21年度は55校から要請が来ており、43校に行っています。一方、支援登録をされている方は96人いますが、実働は約50人にすぎず、これ以上の要請には応えられないのが実情です。

川上 特別支援だけをみると、もう少し深刻で、要請43校に対し、実施できたのは24校でした。登録しても活動していない方が相当（約4割）あり、ここが一つの問題点です。

一度体験すればできる

支援者をふやす何か良い方策は？

宮崎 知人などに働きかけをしているが、支援をやってもいい、という人が少ない。「できるかどうか不安」「しんどそう」といった理由です。むずかしいことはありません。一度でも体験してもらったら、「これならできる」と、思ってもらえますよ。

川上 カレッジ在学中に、もっとPRして現役生に意識を持ってもらう。あるいは地域活動を通じて、元先生や元塾教師に働きかけることも有効では。朝、見守りをやって、昼は学習支援をやる、といったこともありです。気軽に考えてほしいですね。

加藤 カレッジに入るのは社会貢献をするため、という自覚をもってもらう必要がある。ボランティア活動をカリキュラムに組み込むべきでしょうね。

川上 当然でしょう。再び学んで...が校是ですから。学習支援でなくても、どんなボランティアでもいいんです。（一同うなづく）

宮崎 「情報ぎやらりー」やカレッジの情報誌、ホームページを通じて、ボランティアや学習支援活動の楽しさを呼びかけることも必要でしょうね。

加藤 わは、NPOだからカレッジ卒業生でなくても会員になれる。もっと幅広いリクルートも必要ですね。それと支援者の高齢化は年々進んでいるので、常に新規登録者をふやさないと実働人員は減ってしまいます。希望者に体験学習を採り入れるのもいいかと....

ムリせず、あせらず、継続を

グループわの事業として学習支援を始めた中沢保夫さん（前・学習支援委員会委員長・音9）は次のようにアドバイスしています。

いろんな分野で活躍してきたカレッジ生にとって、学習支援はうってつけの活動だが、ムリしないで長く続けることが大事です。特別支援はなかなか手をあげる人がいない。15校なり、20校なり、枠を決めてやったらどうかな。特別支援には交通費だけでなく、報酬的なものも加味してあげたら、と思います。グループわは、支援希望者と学校側の橋渡し（マッチング）が役目です。すべてうまく行くとは限らない。あせらず、ムリせず、少しずつ支援者を増やすしかないでしょう。



学習支援の活性化について語る
加藤・宮崎・川上さん（左から）

一同 それは面白い。有効な手立てかも。

“需要”の多い特別支援に絞っていえば、どうでしょう。

加藤 学科の指導補助というより、ハンデのある子どもたちの面倒をみてあげる、付き添ってあげる、という側面が強い。しかも、1人1人の個性が強いので一律のやり方が通用しない。そこがむずかしい。

川上 逆に、そこにシルバーの出番がある。若い担任だと、どうしていいかわからなくなってしまう、というところがあります。年の功でうまくしのげることも多いのですよ。

特別支援の講習会、見学会を

宮崎 ですから、すべて経験です。難しいことをやるのではありません。そっと付き添ってあげる、だけです。一度体験したらよくわかります。具体的にどんなことをやるのか、講習会や見学会を開くのも効果的かもしれませんね。

- 小学校で英語の時間が増えます。「ハーワーユー」の一言で子供たちの雰囲気明るくなる。英語の支援要請は増えるのでは？

加藤 ところが170校中、3割程度しか市教委に支援申請がないのです。大半は学校独自で英語教育を進めるという姿勢です。

川上 学校現場が忙しすぎて、英語教育の優先度が低いということがあると思う。でも、これからは英語支援に力を入れていく必要がある。英語に堪能な人が多いカレッジ生は、きっと求められる人材だと思いますよ。

ビデオ教材を作っては

学習支援の歩み H16年、カレッジ生が西区樋谷小で算数などの授業補助を始め、好評だったのがきっかけ。H17年7月、中沢保夫さんがグループわの事業としてやってはどうかと、提案。現在の制度となった。各学科の指導のほか、昔の暮らし・戦争などの語り部、障害を持つ子どもたちの世話をする特別支援がある。

戦争体験を語れる人がどんどん減っています。
加藤 今の子はおじいちゃん・おばあちゃんとのふれあいが少ない。昔の暮らしや遊び・戦争を語れるのはシルバー世代の強みですが、高齢化も進んでいる。今のうちに、ビデオに撮って教材にしておくという方法もある。

宮崎 子供たちの映像への興味・関心は高い。戦争の話だけでなく、環境問題なども映像化して提供できたら、と思います。

川上 ライブラリーとして、揃えたらニーズも高まるでしょうね。実際に制作するとなると、かなりの手間隙がかかりますが。

加藤 実現に向けて取り組みましょう。

- 学習支援をやってよかった、と思う時は？

宮崎 行ったら楽しい。子供たちが待っていてくれる。いつも元気ももらって帰ってきます。「今度はいつ来てくれるの？」との言葉に弱いんです。

川上 ボランティアをしているな、と実感できる。第2の人生でこういうことができるのは、本当にやりがいがある。

加藤 子どもとの触れ合いは楽しい。学習支援を通じて私も勉強させてもらっています。

子供たちを温かく見守ることは、シルバー世代の使命です。きょうのお話を一つでも、二つでも生かし、学習支援の輪を広げていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

（座談会は9月3日に実施。まとめは広報の南形徹が担当）

学習支援委員会 支援登録をした人と学校側の橋渡しをしている。H22年7月現在、97人が支援者登録しているが実働者は5割程度の50人。活動日数は平均月2回。5年間で要請校、支援校とも2倍になり、世話した児童は延べ3万人を超えた。このほか、昔遊びメンバーなどがスポット的に支援活動をしている。

夏休み 工作つくった 標本集めた



夏休み中の子供たちをターゲットに、工作や標本づくりなど数多くのイベントが開かれました。「宿題ができた。おもしろかった」。元気いっばいの声に、グループわのスタッフも、にこにこ顔でした。

夏休み工作塾（8月8日） しあわせの村・研修館ホールは、10時の開始前から親子連れが長い行列。木工工作・ケナフ紙すき・織り染め・草木染め・名札作り・ネイチャークラフトのブースがおかれ、別室では昆虫標本づくりも。自由参加とあって600人以上が押しかけ、スタッフの指導で、お目当ての作品づくりに汗を流しました。1人で何種類にも挑戦する子供たちもいて、用意した材料が早々なくなるブースも続出。わの責任者もびっくりするほどの人気ぶりでした。

昆虫採集は抽選で25組が参加。ピオトープ付近でバッタやトンボ、セミなどを捕まえ、研修室に持ち込んで名前を調べ、スケッチに描いてから自然に返してやりました。



【写真上から】
木工・折り染め・
昆虫採集・紙漉
き。右端は須
磨海岸

須磨海岸で遊ぼう（7月25日）
炎天の海岸で貝殻や小石、海藻を拾い集め、一の谷プラザに持ち帰って標本づくり。西宮市貝類館の高田好治さんから貝類についてのお話もあり、親子ら20人の参加者は熱心に聞き入っていました。貝殻でネックレスを作ったり、絵手紙グループの指導で小石に絵を描いたり。出来上がった作品はみんなの前で披露しました。

賑わった夏祭り 歓声おもちゃ市



しあわせの村夏まつり（7月31日）

午後4時から芝生広場一帯で開催。夜店をひやかしたり、ゲームに挑戦したり、夏休みを楽しむ家族づれ3500人でにぎわいました。ステージでは盆踊りや岡本知高の熱唱、1000人のビンゴゲームもあり、盛り上がりました。わの担当は、わんぱくゾーン。竹馬・輪投げ・サッカーガン・ペタンク・こま回し・折り紙・点字シールづくりなどに、子供たちが集まって、歓声をあげていました。初登場の 消火・放水体験コーナーには長い列ができ、2台の消火器、ミニ消防車はフル回転。「意外な人気でよかったですね」と、びしょぬれの担当者はうれしい悲鳴をあげていました。



視・9面の写真撮影は渡邊佳
南形徹・木村成男

かえっこバザール（8月8日）

シルバーカレッジのロビーでおもちゃの交換市が開かれ、600人の親子連れが かえるポイント を使って、わいわいとショッピングを楽しみました。床いっぱいに広げられた約3500点のおもちゃ。「10個ゲットや」と目を輝かせる子供たち。常盤大のお姉さんたちのコンサートや、ワケトンの着ぐるみも登場。昔遊びのブースもあって大賑わいでした。

ボランティアの心

須磨海岸で清掃11年

須磨海岸清掃グループ 梅谷正芳（国際2期）

須磨海岸の清掃ボランティア活動は、1999年（平成11年）7月12日よりスタート。海水浴シーズンの土・日曜は人出も多く、従ってゴミも多いということで月曜の早朝（8時35分）に活動開始することに致しました。活動範囲は海の家が無い場所（海の家周辺は業者がケア）を選定。国民宿舎シーパル須磨（赤灯台）より東へ向かって水族園の南西海浜、5本の椰子の樹近くの神戸市みなと総局東監視員詰所前までとしました。

嬉しいことには、門出となる8月2日（月）の活動ぶりを、神戸新聞出身の1期生の先輩のはからいで取材を受け、8月3日付の神戸新聞に写真付き記事として掲載されました。一同有難く感銘を覚えた次第です。当日参加は13名（1期生6名、2期生6名、3期生1名）でした。

拾うゴミで一番多いのはタバコの吸殻、そして飲み物の空き缶・ビンとペットボトルです。翌年から海水浴シーズン以外にも4～6月と9～11月の半年間



は、曜日を問わず各月末に清掃することにしました。朝の集合場所はシーパル須磨のロビーを提供いただき、清掃活動終了後は東監視員詰所でお茶を飲みながらくつろぎの一刻をすごさせて頂いております。ここから海上視界の利いた日には、関空の飛行機の発着や淡路東浦の観音像（高さ100m・神戸ポートタワーと同じ高さ）が見渡せます。また紀淡海峡の友が島もはっきり見ることができます。

数年前のことですが、湘南海水浴場が冷夏に見舞われ、救命士ボランティアの活動が縮減された折、その余力を須磨海水浴場に注ごうと、有志メンバーが須磨まで出向いて頂いたことがありました。須磨海水浴場が関東の方にも、素敵な海岸という認識を持たれて頂いていることは嬉しいことです。そして今年の5月20日にはグループわ第7回定期総会で、私たち須磨海岸清掃グループが優秀団体として選ばれ表彰の栄に浴しました。改めて厚くお礼申し上げます。（写真は猛暑に負けず活動するメンバー・今年7月）

活動レポート

摩耶山へ納涼登山



盛夏真っ只中の葉月4日、中央区会の有志14名（女性4名・男性8名）で摩耶山登山を楽しんだ。阪急三宮東口バス停から9:27分発の阪急六甲口行きバスにて出発。六甲ケーブル、ロープウェイと一気に乗車。



途中、上りロープウェイの逆方向を見ると眼下に神戸港、明石大橋が一望できるが、あまりに快晴だと少しボヤッとする。約40分で三宮からロープウェイ山頂に到着。ここでも展望台より眼下の神戸港を望む。さらによく見えて満足。

すぐに六甲牧場に入る。通常、山の気温は体感温度差で3度くらい低いが、本日は市内と変わらぬ暑さ。放牧された羊達も暑さのせいで人の通る道端や溜りの木陰から木陰へ移動。そこでじいっと辛抱している風情。野菊、ダリア、コスモスの類もグツタリ。すべて生き物、皆人間並みで暑さ寒さは同じか。

途中、水のがぶ飲み、カキ氷のかき込み、チーズ工場の見学等々、思い思いに暑さをしのいだ。正午前、昼食のできる適当な場所探し。40分程度の食事休憩のあと解散。折角だからと区会長と2人の方は別ルートを散策。その他大勢は一目散に阪急六甲行きバス停に急ぐ。何が何だかわからぬまま暑さだけが印象に残った山登りだったが、一応のコースは終了した。これも善しとする。なにとはもあれ、高齢者全員が無事であったことが、一番の収穫か。最後に国光とし子さんの一句。

「ボランティア束の間の山歩き」

（中央区会・久保正志）

ボランティアの心

自然の魅力を子供たちに

生環11期 菅田 忠志

「あれえ おじちゃんもまた来たん…」 「え～？」
「ぼくな この前の昆虫探しが楽しかったからまた来てん 今日には双眼鏡で鳥の観察するんやて。ほら双眼鏡も持ってきたんやで あっ おじちゃんかっこええ双眼鏡持ってるやん」
「あっそうか、おじちゃんはスタッフさんやったね」

* *

何度かお手伝いしてきた子どもたちを対象にした「自然塾」や「環境学習」ボランティア活動。参加してくれた子どもたちの中には顔なじみになった子もいる。

自分が子どもだった頃の田舎の環境がなつかしく、その頃体験した感覚がいまだに体の中にしみこんでおり、大げさに言えば今の自分の人間形成の屋台骨になっているのかもしれない。

耐乏生活を強いられてきたあの頃、その分周りの



豊かな自然がこころの栄養源となって育ててくれたのだろう。兎追いしかの山も、小鮒やうなぎを取ったかの川もわずかながらまだ残っている。我々の時代に大きく傷つけてしまったこの自然、もう壊されない。日本の未来を託すこどもたちには、是非自然の力や自然の魅力を少しでも多く体験しておいて欲しいと思う。

* *

「そうかぁ 昆虫探しが楽しかったんや 君のこころの中に昆虫が棲みついて友だちになったんやで

小鳥や花も友だちにしたらってな」

参加してくれた子どもたちの成長も早い。2～3年もすればすっかり大きくなり中学生に進学する子ども多いだろう。豊かな心が育つこの時期、自然環境を見つめ、考える機会を提供する中で、体感的に自然環境の大切さを学びとってくれば嬉しいことだ。

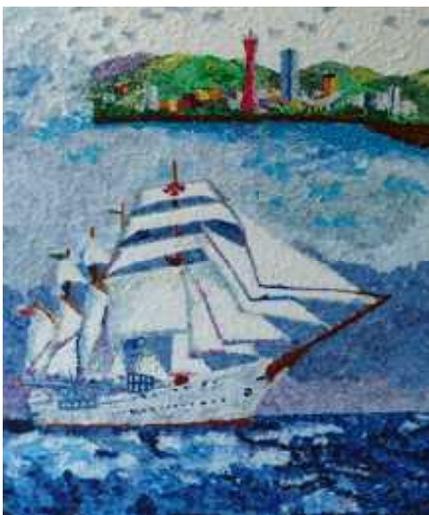
どんなボランティア活動も『こころの通いあい』があってこそ「信頼」「感謝」が生まれ、達成感につながるもの。これからも『こころにひびく』ボランティアのお手伝いができればいいなと思っている。

(写真は09年8月、甲山森林公園で)

地震のチリへ帆船の張り絵贈る

大地震に見舞われたチリの被災者を励まそうと、むかしあそび研究会の有志グループが「エスメラルダと神戸」(60×90センチ=写真)と題した張り絵を制作し、神戸市社会福祉協議会に託しました。

張り絵は、染めた和紙を小さくちぎって台紙に張り付け絵に仕上げるもので、あざやかな色合



いと落ち着いた雰囲気の特徴。研究会の新小田さんら8人が、阪神大震災の頃から手がけ、新潟地震

や四川地震の被災地などへ贈り続けてきました。チリ地震の惨状を聞いた新小田さんが、神戸港に浮かぶ帆船エスメラルダをイメージして下絵を描き、春から制作を続けて7月に完成したものです。エスメラルダはチリ国民にとってシンボリック存在の帆船で、メンバーは「少しでも被災者に喜んでもらえれば」と話しています。

9月23日には神戸中央カトリック教会で、チリ地震被災者救援のチャリティーコンサートが開かれ、張り絵も披露されました。作品は来年1月に現地へ届けられる予定です。

「情報ぎやらりー」新誌名を公募

情報ぎやらりーの新しい誌名を近く公募します。親しまれ、ボランティア団体の会報にふさわしいネーミングをお寄せください。広報委員会で選考のうえ、当選作品を決定します。優秀作品には図書券などを進呈します。応募規定の詳細は1月号で発表します。 広報委員会

カレッジだより



今井学長 矢田市長がカレッジ対談

今井鎮雄学長が矢田一郎・神戸市長をゲストに招いて語り合う「カレッジ対談」が9月7日にカレッジホールで行われました。今回で9回目。この日の話題は、韓国・仁川市との姉妹都市提携、神戸マラソン、ポートアイランドの企業誘致、行財政改革など多岐にわたりました。学生たちとの質疑応答もあり、市政やまちづくりについて白熱した対談となりました。仁川とは4月に姉妹都市協定を結んだこと。震災からの復興ぶりを見てもらうため、長田区などを回るマラソン大会を来年11月に開くこと。ポーアイでの先端医療の取り組みが着々と進んでいること、などが話し合われました。

学生からは、先人の記念碑を作ってはどうか、地域づくりの「パートナーシップ」について、などの質問がありました。（爽風10月号から）

私のボランティア日記

福祉5期 淡路 忠義

平成14年、定年を迎えるのを機に今後のことを考えKSCに入学し、迷うことなく福祉コースを専攻した。卒業後にヘルパー2級の資格を取得し、その他福祉に関連する講義、講習なども受講した。

現在続けていること。（1）在学中よりの「こどもあそび」である。「わ」主催の行事や、「こどもあそび」グループで児童館、幼稚園、小学校その他施設の依頼を受けて活動中。（2）「神港園」ボランティアである。北区会の会長を始めた時（平成15年）に北区ボランティアセンターより、「神港園」への協力を依頼され現在に至っている。

「神港園」では、毎週火曜日の午後1時半より約2時間活動する。対象者は高齢で軽度認知症の方達20名である。仕事としては、洗髪後の髪をドライヤーで乾かすこと。終わると丁寧にお礼を言われることもあり、そんな時には少し嬉しくなる。年に一度「神港園」主催の交流会があり、他のグループとの懇談もある。現在8名の方々と活動しているが、共に活動して下さる方が増えて欲しいと願っている。私としては、体の元気な間は続けていきたいと思っている。

WA 短信

むかし遊びフェスティバル

「じいちゃんを見とれ」。竹馬にひょいと乗ってすたすた歩くと「マジかよ。おじさんすげえや」。周りの子供たちはびっくり。9月20日、フルーツフラワーパークで開かれた むかし遊びフェスティバル のひとこまです。この日、サークルのメンバー24人が、正午から折り紙・紙トンボ・ぶんぶんゴマ・綾取りなど9つのブースを開いて子どもたちの相手をしました。自由参加とあって、家族連れ約400人で大にぎわい。竹馬とコマ回しが特に人気を呼び、スタッフは「もうたくさん」とグロッキー気味でした。



親子でエコラーメンづくり

未来館の第7回エコスクールは9月23日、「ワケトンと一緒に地球を救え」のテーマで、ゴミ収集とラーメンづくりを体験しました。参加者は親子連れ60人。午前中はゴミ分別の話やパッカー車を使ったゴミ捨て実習。午後は6班に分かれてラーメンづくりをしました。食材はインスタントラーメンでしたが、水の量やナベの温度をきちんと測り、食器やハシにも注意して、どうしたら効率よく（CO2を少なく）調理できるか どのようなものがゴミになるのか を勉強しました。調理したラーメンは少しずつ分け合って試食。「おいしいよ」と子供たちはニコニコ顔でした（上の写真）

カレッジOBの作品展

美工10期生でつくる「10期の会（ときのかい）」は9月21日から13日間、神戸市役所内の市民ぎやらりーで作品展を開催しました。油彩・水彩・日本画など43点を展示。美術ファンが連日訪れ、楽しんでいました。

12期生の絵画クラブ「十二支会」も10月4日から1週間、しあわせの村本館ぎやらりーで作品展を開催。水彩・油彩・パステルなど30点を展示しました。

8・9期生が中心の「彩悠会」も第14回展を10月18日から24日まで、同本館ギャラリーで開催。

WA 短信



わ の夜店も繁盛

「さあ、綿菓子買ってや。安いで、うまいで」。
一森店長の呼び込み、増金師匠の鮮やかな風船細工に目をみはる子供たち。村の夏祭り（7月31日）には、わも出店し、アイスクャンデー・チューペット・綿菓子を売りました（写真）。動物風船とセットにした綿菓子が特に人気で、用意した120本は品切れ。生環9期の有志が持ち込んだトマト・じゃがいも・玉ねぎは、1カゴ100円という安さもあって、150カゴはまたたく間に完売でした。「わの店としては例年より、よく売れましたよ」。店長はにこにこ顔でした。わんぱくゾーンに協力してくれたサークルは、昔遊び・点字・ペタンクなど。本部と合わせ70人がスタッフとして参加しました。現役のサークルは国際友の会がヨーヨー釣りの店を出しました。



第2回学習支援の集い

22年度の第2回学習支援登録者の集いが7月21日、カレッジ学習室などで開かれ在校生16人を含め約40人が参加しました。特別支援活動に取り組んでいる藤澤淑子さん（北区・国10）と橋本利雄さん（垂水区・生12）が体験発表。ハンデのある子供たちと、どう接しているか、といったことを中心に日ごろの活動ぶりを詳細に報告しました。その後、3班に分かれて各自の現況報告やフリートーキングが行われました。10月26日には第3回の集いが開かれます。

ジュニア記者が未来館取材

「神戸新聞ジュニア記者」が8月2日、環境未来館（西区）を訪れ、資源リサイクルセンターやピオトープを取材しました。一行は鈴蘭台中1年の立花藍子さんと付き添い2人。センター4Fでは、大量の缶・

私のボランティア日記

福祉9期 室田 千江子

平成17年、卒業テーマとして取り組んだ「子育て支援」は「わらべとともに」の名称で活動を開始しました。主に紙芝居、むかし遊びが活動の中心です。活動を開始してから訪問回数は1か月平均5～6回で、既に300回を越えました。初めの頃の紙芝居の演目は主に「いなむらの火」でした。震災10年を迎えていた神戸のテーマとして是非取り上げたいというグループの熱意からです。

訪問する施設が、児童館・小学校・保育園・老人施設・地域老人会などと範囲が広がると共に、取り上げるテーマや内容も変化してきました。ある意味向上してきたかと自負したり、いや、もっともっと磨かなければと思ったりしています。

仲間は13名で毎月第一金曜日に定例会を開きその月の活動予定をたてています。現在は呼称も「わらべ」となり仲間も若返りました。嬉しいことに支援グループができました。「オカリナ」と「軽音楽」です。お陰で活動も一層楽しくなりました。これからも時間の許す限り、体の許す限り頑張りたいと思っています。

瓶類から手作業で異物を取り除く工程にびっくりした様子。1Fでは自転車などの再生品に見入っていました。ハスが咲き、アキアカネや糸トンボが舞うピオトープには特に興味をそそられたようでした。約2時間の取材でしたが、未来館やゴミ処理の問題について、充分理解してもらったと思います。未来館側は廳健二らが説明にあたり、市環境局の佐藤麻子主査が立ち会いました。取材の成果は9月30日付け神戸新聞に掲載されました。（未来館・三輪匡清）

「ふたばシニア塾」の講師を募集

長田区にある旧二葉小学校を拠点に「地域人材センター」が設けられ、「ふたばシニア塾」などが開設されます。来年2月～3月にはシルバーカレッジの学生・卒業生による講座も予定されています。カレッジで学んだことを地域の皆さんに聞いてもらおうという試みで、この講座の講師を募集中です。個人でも、グループでもかまいません。ぜひ、挑戦してみてください。応募者は登録申請のうえ、神戸市と協議して最終決定します。謝礼は図書カード程度。申請書はカレッジ事務局にあります。問い合わせは事務局中山・松井（743-8100）まで。

WAからのお知らせ

“わ”専用駐車場

シルバーカレッジ構内の駐車場（130台）が手狭となり、かつ有料になったため、KSCと協議の結果、学校農園敷地内に15台の駐車スペースを整備し、わの専用駐車場として9月1日から運用を開始しました。わ本部事務局で「駐車場管理規定」「駐車場運営要領」に従って『駐車場使用許可証』を発行します（駐車場借地料はわ本部が負担しますが、駐車料は無料です）。

しあわせの村内において、わの事業として行うボランティア活動についてはエンコードが引き続き行われますが、KSCの規定に適合した活動で、わ本部が承認したものでないとスタンプされません。詳しいことは、わ事務局にお問い合わせください。

ニュー看板 グループわの本部入口に、このほど「ぐるーぷわ」の看板がかかり、場所がわかりやすくなりました。来客がとまどうことも少なくなりそうです。11×60cmの木製で白地に黒色文字。木工クラブOBの中井文太郎さん（生14）が廃品を利用して製作、寄贈してくれました。



ひよどり台会館の利用案内

シルバーカレッジ関係者の会議やサークル活動に広く利用されているひよどり台会館（北区ひよどり台2丁目）の利用案内は次のとおりです。

会議室は大・中・小5室あり、時間は午前・午後・夜間の3区分になっています。このほか、和室と個人利用の学習室があり、料金は小会議室で1300円（午前中）から。予約受け付けは3カ月まえの1日から開始。毎週月曜日と年末年始は休館です。交通は市バス・阪急バスひよどり台センター前下車、すぐ。問い合わせは電話078-741-9890・FAX747-2350まで。

ぎやらりー広報委員

部会・区会の情報は以下の広報委員までお知らせください。（7月10日現在、敬称略）

【部会】柳川瀬淳一（国際）茅中英一（環境）寄藤忠彦（文化）岸田富雄（いきがい）【区会】久保正志（中央）大掛敏夫（兵庫）徳原尚世（北）細野恵久（須磨）秋山雄一（垂水）水野俊夫（西）【施設など】山口俊雄（未来館）【一般】宮里寿子（北）堺寿代（西）宮城智子（兵庫）胤艸武宏（北）



つぶやき

老人会に思う

最近、身近な老人会の活動を見ていると、公園の掃除、小学校の昔あそびの支援等、公共のための活動をやめて、囲碁・カラオケ・グラウンドゴルフ等の娯楽中心の活動になっている。地域福祉センターは昔の老人憩いの家のなごりで老人会が無料使用の権利を認められているが、活動内容からみて納得がいかない。

老人（連合）会に相互扶助制度があるが、機能していない。このような現状は一部の老人会だけの話なのか。このような老人会に助成金を出すのに疑問を感じる。同年齢の仲間に聞いても、老人会に入っているものはほとんどいない。老人会に入っても、何の役に立つのか、見えてこない。

老人は、日本の将来のために、子供たちや地域のために、自分の経験と知識を生かして指導する立場ではないのか。老人の果たすべき社会的活動の役割を放棄していると思えない。老人会の現状は大変遺憾に思う。

（生環9期 西田圭一）

編集後記

「水温が35度！ 魚なんかいませんよ。松山沖にもサンゴ礁ができて、青や赤の熱帯魚が泳ぎまわっているんです。長い間、釣りをやっているけど、こんなことは初めて」。鯛釣りが得意な友人が嘆いていました。この夏の「殺人的熱波」を象徴するような話です。

そんな猛暑のなか、グループわは、数多くのイベントを実施。多くの子供たちや外国のお客さんに楽しんでもらいました。人気のベスト3は、しあわせの村夏祭り（7月25日）・工作塾（8月8日）・ポーアイでの日本文化教室（23～27日）でしょうか。想定した何倍もの人数が押しかけ、担当者ははててこ舞いでした。その模様は特集をご覧ください。

しあわせの村の里山を整備して憩いの場に…。グループわの提案に助成金が交付されることになり、カレッジの北側から整備が始まります。生物多様性の国際会議（COP10）にちなんで、カレッジでも先輩たちの研究発表が行われます。自然環境や地球温暖化への関心が少しでも広がれば、と願っています。

（編集担当・南形徹）



グループわ 10月～1月のイベントガイド

開催日時/ 開催場所	テーマと内容 (参加方法)	アクセス・問い合わせ先
10月11日(祝) 11:00～15:30 フルーツフラワーパーク	人形劇とマジック (自由参加) 子供向け人形劇マジックを楽しむ	JR「三田駅」無料バス フラワーパーク954 - 1000
10月14日(木) 10:00～15:00 しあわせの村	グラウンドゴルフ大会 (自由参加) オープン参加のゴルフ大会	しあわせの村 グループわ743 - 8101
10月23日(土) 10:00～15:00 灘浜サイエンススクエア	ドキドキの自然体験(希望者) 来て見て触って自然がいっぱい	阪神「大石駅」徒歩15分 環境未来館995 - 3196
10月31日(日) 10:00～15:00 フルーツフラワーパーク	里山探検隊 (希望者) ファミリーで大沢の自然を体験	JR「三田駅」無料バス フラワーパーク954 - 1000
11月13日(土) 10:00～15:00 こうべ環境未来館	3R大作戦 目指せ3Rマスター(希望者) エコ講座 エコゲーム エコクラブ発表会	神鉄「木津駅」徒歩5分 環境未来館995 - 3196
11月21日(日) 10:00～15:00 しあわせの村	第1回ローンボウル大会 (自由参加) ローンボウルにチャレンジしよう	しあわせの村内 グループわ743 - 8101
11月21日(日) 10:00～15:30 しあわせの村	バードウォッチング (自由参加) 何種類の野鳥を観察できるかな	しあわせの村 グループわ743 - 8101
11月23日(火・祝) 10:00～15:00 須磨近辺の山	須磨の山で健康ウォーキング (自由参加) 森林浴を兼ねていっしょに汗かきましょう	しあわせの村 グループわ743 - 8101
11月～2月 (4回開催) 場所と日時は未定	日本の伝統文化体験講座 生花、大正琴、着付、和菓子づくり	しあわせの村 グループわ743 - 8101
12月5日(日) 10:00～15:00 こうべ環境未来館	冬を満喫できる自然教室 (自由参加) かひまりとクリスマスリースづくり	神鉄「木津駅」徒歩5分 環境未来館995 - 3196
12月12日(日) 12:00～15:00 フルーツフラワーパーク	手作りのクリスマスプレゼント (自由参加) 心をこめたプレゼントの制作	JR「三田駅」無料バス フラワーパーク954 - 1000
1月23日(日) 10:00～15:00 須磨一の谷プラザ	手づくりの和風で凧上げしよう (希望者) 須磨海岸で凧上げを楽しもう	しあわせの村 グループわ743 - 8101

希望者参加は事前に問い合わせてください。

ニュースポーツを楽しもう



スポーツの秋。グラウンドゴルフやパターゴルフ・ペタンク・ローンボウルが、気軽にできるシルバー世代のスポーツとして、人気を呼んでいます。グループわでは、こうしたスポーツのイベントを随時開催し、皆さんの参加を呼びかけています。健康づくりに、アンチエイジングに、仲間に加わって一緒に汗を流してみませんか。

グループわには、いきがい部会があり、ニュースポーツやフォークダンスなどのサークル活動を活発におこなっています。いつでも入会できます。



写真 = 左上から下へ。学食内で雑貨のバザール。わのカレー店。テントでは園芸品販売。同窓会ブース。バザー会場。

がやがやと 雨でも楽しい 学園祭



残念やなあ、雨の学園祭 - - 10月9日、シルバーカレッジで行われた第16回学園祭は、9年ぶりに雨の開催となりました。それでも在學生や家族、卒業生らが次々と訪れ、例年並みのにぎわいとなりました。中庭のうどんや豚汁・炊き込みご飯・カレー、手作りのお菓子・雑貨など20の模擬店は屋内に分散避難。花苗・園芸品はテントで販売しました。ステージでは23グループが歌や演技、演奏を熱演。満員の客席から惜しみない拍手が送られていました。

人気のチャリティーバザーには朝から長い行列が。2700点もの“格安品”を次々と買い求めていました。ロビーでは絵画・書・写真・陶芸などが展示され、喫茶コーナーやお点前の和室も大忙し。同窓会ブースには卒業生が訪れ、展示作品を見たり、談笑を楽しんだり。グループわのカレーは食文14期生が腕を振るい、ベトナム雑貨の模擬店では国際部会が奮闘しました。「雨は残念でしたが、皆さんの協力で盛況でした」と大会実行委員長。